文学部 FD レター no.14

作成文学部 FD 委員会 2021 年 5 月

日頃より FD 活動へのご協力に感謝申し上げます。本学の FD 委員会は、これまで文学部と人間生活学部に別々に置かれ個別に活動を行ってきましたが、2020 年度より一つの FD 委員会として統合されました。両学部共通の教養科目の設置、全学的な LMS の導入、FD 活動に関わる共通の課題への認識などを受けて取られた措置です。

従って、文学部 FD 委員会として出すニュースレターも最後となります。文学部 FD 委員会は授業改善を目的に年２回の授業アンケートを実施し、その都度ご担当の先生方にその結果をお知らせしてきました。特に、授業改善・情報共有という観点から、「学生自由記述欄」と先生方から提出された「授業改善のために」に書かれた内容を委員会で整理し、公表してきました。最終回にあたり、まとめた形でご報告することにいたします。

I. 授業アンケートの学生自由記述欄

今回、2019 年度後期の自由記述欄については旧文学部 FD 委員が閲覧いたしました。これまで取り上げてきたのは、もっぱら自由記述の内容に関してで、記述の多寡やその推移などは検討材料としてきておりません。ただ、自由記述が減ってきている印象があるなどの指摘をいただくことはありましたので、年度ごとの比較はできませんでしたが、今回、自由記述の書かれている比率を授業形態ごとに見ました。講義 25%、外国語 35%、演習 30%というのがおおよその数字です。人数規模が小さく、学生参加型の授業での比率が高いことが推測されます。講義のなかでも課程の授業において、また外国語の中では講読系よりも会話系の授業での比率が高い傾向があることもそれを裏付けているように見えます。とはいえ、比較的大人数の講義でも自由記述が多い授業があったり、外国語の授業でも全く自由記述がなかったりと、全体的にばらつきが認められました。また、自由記述がなくても、質問項目の集計からみると満足度の高い授業もあり、自由記述の少なさが必ずしも低い評価につながるものではなさそうです。ここに書かれた意見は、教員・学生間のコミュニケーションの素材、授業改善のための材料として考えるのが適切かと思われます。

以下、「講義」、「外国語」、「演習」の順で内容を要約しながら紹介いたします。

１．講義

（１）良かった点

例年のことですが、「専門知識の修得に役立った」、「研究の方法を学んだ」、「既に学んでいる基礎的な授業が役立った」、「さらに関心の幅が広がった」など、講義の目的や意

図に即した評価が多く見られます。教材・機材（レジュメなどの配布資料、映像・図像資料、パワーポイントによる提示等）の活用、特に映像の使用についての言及が年々増える傾向にあります。「説明がわかりやい」という意見も好意的評価として多く見られますが、声の大きさや説明の丁寧さに加え、これら教材・機材の充実も含まれているものと推測されます。また、リアクションペーパーや小テストなどへのフィードバック、グループワークやディスカッションなどへの評価も多く、教員側のさまざまな工夫がうかがえます。

（２）改善して欲しい点

「良かった点」で指摘されているのと同様のトピックにかかわる意見が多くを占めています。例えば、教材・機材の活用については、大方その効果が高く評価される一方で、文字の大きさ、情報量、スライドの切り替え速度の速さ、音声の大きさなどについて改善が求められています。レジュメの事前配布に対する要望も毎年見られます。また、リアクションペーパーや小テストなどとかかわる改善点については、フィードバックの実行や方法ついての要望が多く見受けられます。

これらの他に、近年増えつつあるのが授業規律に関する問題で、遅刻者や中途退出者、課題を怠る者、私語をする者への厳格な対応を求める声が増えてきています。「マイクを使って欲しい」という意見に、周りの私語がうるさいからという理由が付け加わっている記述も散見されるようになりました。

２．外国語

（１）良かった点

「話す機会が多かった」、「発音や文法を学んだ」、「テストのスコアが上がった」、「実際に使えるようになった」というように、実際に語学を学び、実力が身についたことへの実感を伝える意見が目立ちます。また、外国語の授業においても顕著に見られるのが、映像、ニュース、音楽など教材の有効活用についての評価です。そして、そのような様々な教材を通じて、言語以外にもその国の「文化や社会問題、国際情勢にいて学べた」など、学習の広がりを評価する声も毎年多く聞かれます。

また、「授業が楽しい」、「先生が優しい」、「話しやすい」、「質問しやすい」、「苦手でも参加しやすい」、「間違えても気にならない雰囲気があった」というように、参加型の授業が多いためか、授業の雰囲気を作る教員の人柄についての言及が多く見られるというもの外国語の特徴といえそうです。同様に、「質問に丁寧に答えてもらえた」、「添削をしてもらえた」、「公平に発話の機会が与えられた」などの意見が見られるのも毎年のことです。

（２）改善してほしい点

講義の場合と同様に、ますます多く聞かれるようになったのが、不真面目な学生（遅刻、私語、課題をやってこない、スマートフォンを使用するなど）への対応を求める声です。その他、指摘されていることの多くは、毎年ほぼ同様で、授業の雰囲気を損ねる教員の態度や言葉遣い、不適切な時間管理（始業時間や終業時間を守らない）や配分（学生全員に順番が回らない）、課題に対するレスポンスの不足、過重な課題、購入したテキストの不使用、などです。

３．演習（実践的科目も含む）

（１）良かった点

「発表の機会があった」、「レポートの書き方や文献の探し方が学べた」、「卒論につながる勉強ができた」というような授業の目的に即した評価や、課程に関連する科目では、その実践性に対する評価が多く見られます。語学同様、参加型の授業が多いことから、教員による説明、コメント、アドバイスの適切さ、オフィスアワーなどによる事前・事後指導、発表機会の確保や公平性も、毎年評価点として話題にあがっています。

（２）改善して欲しい点

「改善して欲しい点」についても、「良かった点」と同様のトピックに関わるものが大半です。事前指導、発表の機会、教員からのコメント、アドバイスやフィードバックなど、これらが十分か不十分かで評価が分かれているといえます。また、受講生が多すぎるとの不満のほか、他の授業形態の場合と同様、遅刻者や予習を怠る学生への注意を求める声が増えています。

4. 教室の施設・設備（受講者数、教室の大きさ、照明の明るさなど）について

講義、外国語、演習を通じて、指摘されている問題はほとんど同様のため、授業形態ごとに分けることはせず、ここにまとめて報告いたします。教室と受講者の人数の不釣り合い、教室の温度調節の不適切、プロジェクターやマイクなどの機材の不備、ホワイトボードのマジックの擦れ、体育館の老朽化などに関するものが主です。今年度の要望で特に目立ったのがゼミ室への時計の設置でした。アンケート結果を受けて、教務課や施設課も注意を払い改善に努めているので、先生方でも学生の皆さんでも、何か問題に気づいたときには、関係部署への連絡をお願いいたします。

Ⅱ. FD 委員会より

先生方には毎年 4 月に、前年度後期のアンケート結果に関する「授業の改善のために」の提出をお願いしてきました。ところが、新型コロナウィルス感染症の蔓延とともに、昨年度前期は非対面授業でのスタートとなり、先生方が登校する機会がなくなりました。また、教務課においても紙媒体でのやり取りを全て停止したため、先生方から 19 年度後

期の「アンケートを受けて」を受け取ることができないという事態が生じました。メールによる提出もありましたが、ごくわずかに留まりました。また、委員会の方も、再編や委員の交代、特に非対面授業やLMS導入に関わる対応のために、先生方からの意見集約を怠る形になってしまいました。また、本号自体の公表も大幅に遅れることになりました。深くお詫び申し上げる次第です。

このような事情もあり、以下では、これまで「授業改善のために」でいただいてきた意見をまとめる形で報告いたします。

１．自由記述欄に書かれた意見への回答について

以前は、自由記述の分析として、委員会向けに回答していただいておりましたが、アンケートへのフィードバックという観点から、2017年度後期分から、学生に向けた回答として書いていただくよう変更しました。変更当初は、依然として委員会向けの回答が目立ちましたが、徐々に学生向けの回答が定着してきました。今回、提出いただいた回答の中にも、授業中の私語をあえて注意しなかった意図や、飲料の摂取を禁止した意図など、学生からの意見に対して丁寧に回答した例がありました。今後も、担当教員と学生との間の授業改善に向けた意見交換の場として機能してゆくことが期待されます。

２．授業改善で成果がみられたご自身のFD活動について

例年多くご指摘いただいていることは、教材や機材の活用、学生の参加や双方向性を目指した方法上の工夫に関するものであり、その成果は学生の自由記述からもうかがえます。

３．授業改善を実施するうえでの問題点について

回を追うごとに増えてきた問題として、学生の学力や学習意欲の格差、授業規律についての指摘があります。初めはもっぱら教員側からの指摘でしたが、特に出席管理や私語への対応については、授業形態の区別なく、学生側からも厳格化への要望が寄せられるようになりました。出席や遅刻者の管理については、LMS の利用がある程度解決に役立つと予想されますが、私語等、その他の規律の問題は残ります。また、学力や意欲の格差は、カリキュラム運営やグループワークなど授業運営にも関わる問題であり、今後の課題として残されています。

４．　FD活動全般に関するご意見・ご提言について

「３」の問題とも関わりますが、LMSの活用や授業方法に関する講演やワークショップなど、授業改善に向けた情報交換や意見交換に活動の中心を置くべきとの提案はたびたび受けてきました。また、アンケートの実施方法やその活用方法、ひいてはFD活動そのものの意義など、これらの問題が主に指摘されてきた問題です。

本学文学部のFD活動は、授業改善、すなわち教員と学生双方にとって有意義な授業の実現を目的としてきました。そのため、学生の自由記述と教員からのご意見を中心に改善点を探ってきました。主要な課題についてはほぼ明らかになり、学生の自由記述に対する回答が定着したところで、次のステップに進む予定でおりました。その一環として、2020年度前期におけるLMSの仮導入、後期における本格導入を計画しておりましが、新型コロナウィルス感染症の流行という事態に押され、LMS を前倒しで本格導入することとなりました。また、先生方、学生の皆さん双方の協力により何とか運用が軌道に乗りましたが、感染症という外圧は、教員、学生を問わずICT運用能力を一気に高める効果をもたらしたように思われます。

今後は、統合されたFD委員会の下、LMSや種々のICT機器の利用、非対面授業の方法や活用など、授業改善全般にわたる情報共有に軸足を移してゆくことになるか思います。先生方のこれまでの改善努力に感謝するとともに、引き続きご協力をお願いする次第です。